

## 子どもの文化と保育についての研究(1) —幼稚園における園文庫活動についての考察—

谷 映 子  
(北星学園幼稚園教諭保育士養成所)

### I. はじめに — 研究の意図 —

絵本の読み聞かせと並行して園文庫を設ける幼稚園が道内にも増えてきている。向断なくおしよせるマスコミ文化・消費文化攻勢のなかで、子どもの心身への影響が心配される今日、園文庫活動は子どもの心を育てる文化との出会いの機会、普及の場としても大きな役割を果たしているといえよう。そこで、園文庫がどのように実践されているかを調査し、園文庫が果たしている役割について考察したい。

私はこれまでも、保育のなかで児童文化財の活用についての調査や、子どもの文化に关する実践のまとめを保育者と協力してすすめてきた。幼稚園における園文庫活動についての調査も、その一環として行ったものである。

### II 研究の方法

〈調査対象及び期間〉 道内のキリスト教保育連盟加盟園(62園)の協力を得て行った。(表1参照)

期間は1991年11月～1992年3月。

〈表1〉 調査対象園

地 域	面接調査	アンケート調査	
		園教	有 児 幼 園 教 諭
札幌	6	8	1
後志	3	4	1
道南	0	6	3
日 胆	1	9	2
石狩空知	3	6	4
道北	1	7	4
道東	0	8	5
計	14	48	20

\* アンケート回収率 41.7%

### 〈調査方法〉

①対象園から園文庫実施園14を送び、幼稚園を訪向して面接調査を実施。  
②面接調査園を除いた48園には、復向紙を郵送で配布、回答を返送していただくアンケート調査を実施。

〈調査内容〉 ●園文庫のねらい、動機 ●園文庫の運営(貸出方法、蔵書、送書など) ●保育との関わり。

●家庭への働きかけ ●公共図書館との関わり。 ●よ  
く読まれている絵本 ●月刊保育絵本の扱い ●読書ノートについてなど。

### III. 調査結果と考察

#### 〈園文庫をはじめた動機〉

- ①保育者(園長、主任が多い)が、すぐれた絵本に出会い感動した経験から、幼児期にすぐれた絵本と出会ってほしいと願って。(10園)
- ②絵本を媒介にして親子のふれあいを深めてほしいと願って。親子読書をすすめたい。(9園)
- ③地域の文化状況を考えて、よい絵本を普及したいと

願って。(5園)

④絵本の読み聞かせを続けているうちに、子ども達からの“貸して”という要求にこたえて。(4園)

⑤他園の園文庫の実践を見聞したり、絵本についての講演の内容に共鳴して。(4園)

⑥家庭文庫、図書館づくりの運動に携わる人達のすすめと協力があって。(2園)

⑦テレビ中心ともいえる子どもの生活を变えたいと考えて。(2園)

⑧出版社の発行する「園文庫の手引」を読んで。(1園)

#### 〈蔵書について〉

表2参照。蔵書の構成は物語絵本が7~8割、次いで科学絵本(図鑑を含む)、幼年童話となる。どの園にも聖書に关する絵本が用意されていたのが特徴的であった。複本については、①本の種類を増やすことに力尽かぶかれ複本が十分でない園、②子どもの反応を考慮し複本を整えている園、③新刊購入時から全て複本にし、複本の意味が十分に理解されていない園に大別できる。

〈表2〉 園文庫一覽

園名(文庫名)	園数	児童数	蔵書数	貸 出		備 考
				期 間	無 数 対 象	
札幌 H 園	142	68	1,000	週1回 土~金	1	全園児 図書室・父母用文庫あり
〃 T 〃	34	71	800	金~木	2	〃
〃 K 〃	130	74	2,000	金~火	1	(金7年1200円) 面接調査園
〃 M 〃	150	78	2,000	金~月	1	図書室・父母用文庫あり
〃 S 〃	96	78	2,000	金~金	2	〃
〃 N 〃	33	79	450	木~木	2	図書貸出規則あり
美唄 M 園	71	70	600	毎週日曜 土~日	1	環境あり・金7年1000円
稚内 H 〃	144	73	830	水~水	5	希望者 図書室あり
小樽 T 〃	104	73	1,075	土~水	2	全園児
野幌 N 〃	175	74	2,000	土~月	1	〃
江別 W 〃	151	75	1,037	木~月	1	〃
伊達 D 〃	120	76	2,000	土~月	1	〃
倶知安 M 〃	55	79	699	火~火	1	父母用文庫あり
小樽 R 〃	73	76	979	金~月	1	〃
興部 H 園	110	75	630	土~月	1	全園児 図書室あり
北見 N 〃	141	75	300	随 時	希望者	〃
苫小牧 H 〃	122	75	920	月2回 木~水	全園児	〃
江別 W 〃	101	76	1,408	金~月	1	〃
旭川 H 〃	106	79	564	土~月・火	1	〃

#### 〈貸出について〉

表2参照。貸出期間は次の二つに大別できる。①休

園日に家庭で読み聞かせをしてほしいと願って週末に貸出し、週明けに返却。②親子読書を生活に定着させたいと願って一週間貸出す。なお、貸出しは保育時間内に行う園が多い。

#### 〈保育との関わり〉

よい絵本との出会いがないまま入園してくると子どもが大嫌いだという。●好きな本は怪獣の本、テレビ(劇団)の本と答える子が多い。●家庭には、保育者が読み聞かせたいと思う本が少くない。●本を読んでもらった経験が少ない。●絵本の扱いが乱暴である。

こうした状態をふまえて保育の中での読み聞かせを大切に、日課に位置づけている。●好きな本はくり返し読み聞かせる。●子どもが自由に手にとってみられるようにする。●ごっこ遊びや、他の活動に発展させるように切りかける。やがて各々好きな本ができ、自分達か「読んで」と要求するようになる。●絵本を仲立ちにして子ども同志の交流が生れる。●絵本から幼年童話一長編も楽しめるようになり、本を大切に扱うようにならっていくという。

また、どの園でも読み聞かせと同様に「おはなし」(昔話、創作童話、聖書のはなし)が、子ども達の楽しみの一つになっていたことも特徴的なことであった。〈家庭への働きかけ〉

借りた本は親か子どもに読んで聞かせよこと(親子読書)が、貸出しの唯一の条件となっている。そこで、親子読書も励ますために様々な取り組みが行われていた。●専門家を招いて絵本や親子読書についての講演会や学習会 ●読み聞かせについての経験の交流 ●通信物(園だよりなど)で絵本の紹介や子どもの反応について ●絵本の輪読など。その他、母親達の自主活動として「お母さんの読み聞かせの会」、「子どもの本の会」一学習会、「園文庫だより」の発行など、ユニークな活動も行われていた。

子どもの反応、母親の感想を知るために、読書ノート(カード)を使用していた園は5園。●子どもの絵本についての興味、関心かわかる。●母親が絵本、子どもへの理解を深めていく様子かわかる。●子どもの成長の記録になる。●母親と保育者の交流が盛んになるなどの利点はあきか、一方で、書きこむ負担になる母親もあり、ノートへの記入率は園によって異なる。

#### 〈公共図書館、地域文庫との関わり〉

蔵書数の少ない小規模園では、文庫開設当時、市の図書館から1ヶ月100冊の団体貸出を受けている。

豊野H園では、町の公民館図書室の児童図書購入費の一部で絵本を補充(何年か一度)、長期貸出の形

で貸出されている。これは、公民館図書室の幼児、小学校低学年の利用度が伸びたことで、長年にわたる幼稚園での園文庫、親子読書の実践が評価されてのことである。

野幌N園では、幼稚園の二階に設けられている(48年)地域文庫と連携を保っている。この地域文庫は、幼稚園での読み聞かせ、園文庫の貸出して絵本の楽しみを知った子ども達が卒園すると身近に本を借りる所がなくなることを考慮してつくられた。設置主体は教会で「児童館のような、地域の子どもの文化を育てる場にしたい」と教員、卒園児の父母が実務を担っている。

#### IV まとめ

##### 〈園文庫が果している役割〉

以上のような園文庫の実践から、園文庫が果している役割を次のようにまとめることができよう。

- ①絵本の読み聞かせが家庭生活に位置づくことにより、子どもが本に親しむこと、読書すること＝文化習慣を身につける契機になっていること。
- ②子どもに絵本を読み聞かせることを通して、母親自身が絵本に関心を持ち、絵本について、子どもについて理解を深めていくこと。
- ③園文庫の実務の手伝いを通して、子どもの文化に関心を持ち、卒園後、地域文庫、学校図書館開放事業のボランティア活動に参加する、地域文庫づくりに励むなど母親が変わっていくこと。
- ④絵本に対する関心が薄い、よい本の書店に置かれていない現状では、良書を普及する役割を果している。
- ⑤公共の読書施設が十分に整備されていない今日、園文庫は読書施設を補完しているといえよう。稚内9H園は遠距離にある園児のために、教会の協力で「巡回図書」(移動図書館のような活動)を行っている。前述した野幌N園の地域文庫との連携を子ども会(幼稚園)か地域の文化センターとしての役割を果しているといつてよいのではないだろうか。

##### 〈今後の課題〉

- 新刊本の購入が優先されかちであるか、蔵書内容、送書を検討、配架の工夫、損傷した本の扱いを検討し文庫を質的に高めていくこと。
- 慣習的に扱われている月刊保育絵本について検討すること。
- 地域の文化運動、公共図書館に関心をもち、地域を視察にいかして実践を豊かにすること、交流すること。(付記:この報告は、北海道私学教育研究協会の委託研究の一部である。)